



みんなの家（仮設団地集会所）で2月16日に行われた「あったか料理教室・カフェ」の一コマ。熊本県立大学生や子どもたちと仮設に住む友人と一緒に釜焼きピザと「生まれて初めてつくりました。また家でもつくりたい」とにっこり

地震はよか勉強になった

さかい 境井 ハルエさん（南出口仮設団地）

老人会の会長として活躍している境井ハルエさん。熊本地震では住家が被災し、今は仮設住宅に住んでいる境井さんをクローズアップする。

熊本地震の被害を受けて家は住めない状態になってしまい、泣く泣く住み慣れた我が家をでて仮設住宅へ移り住むことになった。

朝5時に起き、近所の散歩を1時間ほど楽しむのが日課。6時になったら朝ごはんを支度。食べ終わった後は、散歩がてらに仮設住宅の敷地内にある集会所「みんなの家」に顔をだし、その日に行われている行事に参加して楽しんでいる。仮設住宅には町のさまざまな地域から人が集まっている。地震はそれだけの大切なものを奪ってしまったが、苦労と一緒に乗り越えた住民たちの結束力は強い。

「同じ仮設住宅にすむ南阿蘇村の人や、益城町や他の地域から支援にきてくれた人など、友だちがたくさんできました」と屈託なく話す境井さん。

今年で満84歳。まだまだその好奇心が衰えることはない。「地震の前までは用事ができないと外にすることはなかったが、今は人に会うことが何よりも勉強になるし楽しくて、ついつい外出してしまう」と語る。

「戦時中は、物がなく、毎日やつの生活をしてきた。今は物があふれている時代。あのころからすれば」と言葉をつまらせる。

「うー、なにが起るかわからないのは世の常。なにがあっても大丈夫なように日頃からしっかり備えるようにと孫には口が酸っぱくなるまで話しています」「不自由を体験していることは何よりも尊い」と笑顔に戻る。

明るく前向き。周りが笑顔になる不思議な力は今日も仮設住宅に笑顔を咲かせている。

からいもくん便り

大津町総合情報メール
携帯電話やパソコンのメール機能を活用して、生活に役立つさまざまな情報をお知らせするシステムです。

登録方法: ozutown@gw.ansin-anzen.jpに空メールを送信してください(スマートフォンの場合は件名に任意の1文字「あ」などを入力して送信)。

▼2月19日の大津町総合防災訓練では被害状況のわかる空からの写真を撮るため、ヘリコプターに生まれて初めて乗りました(9頁の背景写真)▼ブルーシートがかかる家屋や空き地が増えており、胸が苦しくなりました▼クローズアップの境井さんは前向きで「どん底を知っているからこそ活路が見える」など書ききれないほどの金言を頂いたと思います▼お会いした時も5日の福祉祭りの準備に勤しんでいました▼好奇心、実行力、前向き全部見習いたい(MIDEO)

つづきの声

大津のことがもっと好きになる情報誌

広報 おおづ

3

MARCH 2017

今月の表紙

2月19日に町内全域で行われた大津町総合防災訓練の一つとして行われたあんしん声かけ訓練での一コマ。ピブスを着た認知症の高齢者役の人に優しく声をかけながら地域の皆さんと一緒に避難所である大津南小学校を目指します(記事は8、9ページ)。

今月のみどころ

地震関連の手続きはお済みですか？

期限がせまっている地震関連の手続きを一覧にしました
手続きをする予定の人は確認をお願いします

一部損壊世帯への見舞金・義援金申請受付中

り災証明書のり災区分が一部損壊の皆さんへの支援があります
対象の場合は申請をお願いします

町長・町議、誕生

任期満了に伴う町議会議員一般選挙の投票が2月5日に行われました
その結果をお知らせします